平成２９年度自然保護委員総会　第４１回山岳自然の集い　白山大会　実施報告

自然保護委員会

平成２９年度公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会（以下、日山協）自然保護委員総会（第４１回山岳自然保護の集い白山大会）が、９月９日～１０日（オプションの白山登山が９月１０日～１１日）、石川県白山市にて、石川県山岳協会（以下、石川県山協）の主管にて開催され、３０都府県から１０４名が集った。

開山１３００年を迎えた白山での開催に当たり、テーマを「悠久の歴史を守り続ける白山文化に学ぶ」とし、日本古来の山岳文化を想い、山岳自然保護へと繋げる契機となることを期した。総会日程の第１日目を開会式・基調講演・総会議事、第２日目をフィールドスタディー、第２日から第３日目をオプションとし白山登山が行なわれ、全プログラムを成功裏に終えた。

（第一日目）

冒頭の開会式では能田輝夫石川県山協理事長の開会宣言のあと、伊藤克己日山協副会長・松隈豊日山協自然保護委員長の主催者挨拶、高田和彦石川県山協会長の主管挨拶に続いて、開催地元白山市から臨席の井田正一副市長から来賓挨拶が行われた。

伊藤克己日山協副会長の挨拶では、組織の改称に触れ、競技団体的イメージが強くなったが中身は同じとし、登山部の活動は大切で、自然保護は登山の重要部門であると述べ、教職時代にしばしば訪れたことのある白山に想いを繋げ、この総会が有意義な機会となることを祈念するとした。

開会式のあと、石森長博石川県山協副会長の講師で、「白山信仰と文化遺産」のタイトルで、１時間ほどの基調講演が行われた。概要は次の通り。

（講演概要）

日本では、山岳には神霊が宿り、それを対象とする自然信仰が古来より行われていた。白山では、僧・泰澄が１３００年前に登頂を果たして以来、日本古来の信仰が渡来の仏教を融合し、白山信仰として世に広まっていった。平安時代には、石川・福井・岐阜の３県に「馬場」と呼ばれる登拝の拠点と「禅定道」と呼ばれる登山道ができ、盛んに登拝が行われた。開催地にある白峰地区の集落は越前禅定道の経路として中世以降栄え、その名残を今に留めている。明治時代の廃仏毀釈の難を免れた頂上仏が下山仏として白峰地区の林西寺に安置されている。

白山は２，０００m級山岳の日本最西端に位置するため、貴重で豊かな高山植物の西限地帯となって、ハクサンコザクラなど「ハクサン」の文字を冠した固有種の植物を産し、その多さは古書「白山草木志」に著述されている。講師は結びに「自然界における人間の貴重な文化遺産や歴史との調和を図り、視野を広めた自然環境を保全することが肝要である。」と説いた。

引き続き行われた総会議事では、平成２８－２９年度自然保護委員会活動報告と、参加団体から活動状況の発表、質疑応答が行われた。議事の詳細については日山協ホームページを参照願います。

夕食後、一段落して懇親会が和気藹々と行われ、談笑に交流に時間を忘れるほどであった。

（第２日目・第３日目））

明けて、１０日には、白峰地区伝統的建造物群保存地区等視察（１班）とオプションの白山登山（２班）の２つのグループに分かれ、エキスカーションのフィールドスタディーが行われた。

１班には３７名が参加し、「白山砂防科学館」を見学のあと、白峰地区の旧山岸家住宅（往時の庄屋邸）、白山下山仏を安置する林西寺、白山ろく民俗資料館を巡り、伝統文化を学習した。

２班には４４名が参加し、１１日までの１泊２日で別当出合から砂防新道を往復する白山登山となった。今回の登山コースの砂防新道は、中飯場や甚之助小屋にエコトイレ・水場が整備されたコースであった。登山口からすぐに自然公園特別保護区であり、固有種のハクサンオオバコが自生しているが、外来種のオオバコ除去活動が進められていると聞く。「ハクサン」を冠する植物として、弥陀ヶ原付近ではハクサンナナカマドの赤い大粒の果実や、ハクサントリカブトの深紫、頂上直下で地這うハクサンゴヨウマツ（他ではハイマツの様相）、白山ならでは自然を体感した。

（松隈豊記）